



# てんのうじ知りたいウォーク ~てんのうじ知りたい倶楽部設立記念ウォーク~

日時 平成 25 年 10 月 20 日 (日) 13 時 15 分受付開始 13 時 30 分催行  
 主催 てんのうじ知りたい倶楽部 (旧未来わがまち会議)  
 協力 天王寺区役所・てんのうじ観光ボランティアガイド協議会



注意事項:神聖な場所の拝観となりますので  
 ■境内では静粛に ■拝殿では拝礼を ■社殿・お堂内は脱帽  
 ■タバコは決められた場所で ■ペットはご遠慮ください。

## コース



## 行程

- 天王寺区民センター(集合)
- ➡ 光傳寺(こうでんじ)
- ➡ 萬福寺(まんぷくじ)
- ➡ 源聖寺(げんしょうじ)
- ➡ 稱念寺(しょうねんじ)
- ➡ 大蓮寺(だいにれんじ)
- ➡ 谷町九丁目駅周辺(解散)

2015 年 (平成 27 年) は、大坂夏の陣から 400 年、天王寺動物園が開園 100 年、そして、大正 14 年 (1925 年) 4 月に天王寺区が創設されて 90 周年と、記念すべき年となります。  
 旧天王寺区未来わがまち会議のメンバーさんを中心として、区民の皆様とともに 2015 年に向けて、これからも天王寺区の「宝」を探訪し、天王寺区の「よさ」を後世に伝えていきます。



天王寺区マスコットキャラクター  
もてんちゃん

## ◎旧大阪女子学園高等学校(大阪夕陽丘学園)

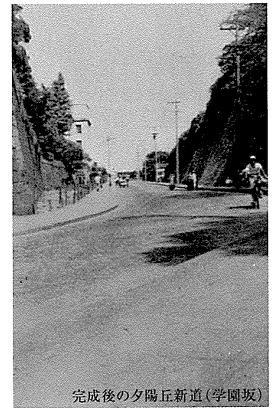
昭和 14 年(1939 年)に、株式会社大丸元社長故里見純吉の発意にもとづき、大丸洋裁研究所が堺に設立された。その後、昭和 17 年(1942 年)に、大阪市天王寺区(現在地)に移転し、大丸洋裁学校、のちに大阪家政学園と改称し、高女卒業者を対象としていた。江戸時代に存在した料亭「西照庵」の跡地に建てられたといわれている。

平成 17 年(2005 年)に、学校法人大阪夕陽丘学園、大阪夕陽丘学園短期大学、大阪夕陽丘学園高等学校と改称し、一部は男女共学化されている。

## ◎学園坂(かくえんざか)

大阪夕陽丘学園高等学校(旧名大阪女子学園高等学校)の南側に隣接した坂で、昭和 12 年(1937 年)に都市計画道路として新設された道であり、天王寺七坂に含まれていないが、源聖寺坂と口縄坂の間を並行してはしる坂である。

千日前通と逢坂(国道 25 号線)の間の唯一の車道で、松屋町筋から東に上っていき、谷町筋(六万体系差点)を途中通り、更に天王寺郵便局前を通過して上町筋あたりまでの道である。



## ◎佛迎山感應院 光傳寺(こうでんじ) : 浄土宗 (本尊:阿弥陀如来)

元和 5 年(1619 年)に開山。空襲により戦前の焼失してしまったが、先代住職が亡くなる数年前に光傳寺の姿を絵に残していた。

境内には、淡嶋神社の分社や出世地藏尊、大阪市の史跡に昭和 38 年に制定された江戸時代の狂歌人、鯛屋貞柳翁(たいていりゅうおう)のお墓がある。



## ●淡嶋明神

災厄身代わり人形流して有名な和歌山加太野の淡嶋明神の分社。淡嶋神は、薬王神で、天照大神の第六の姫君で住吉神の妃となったが、婦人病のため離縁となり、綾の巻物と神宝をもらって空船に乗り加太に着いたといわれている。途中嵐に遭い、当寺に一時避難されたと古史に伝えられている。



## ◎嶺卓山松林院 宗念寺(そうねんじ) : 浄土宗 (本尊:阿弥陀如来)

城下町建設のため江之子島よりこの地に移転、戦災で寺院は焼失したが、本尊阿弥陀如来は前住職が必死で猛火の中抱きかかえて蓮池に飛び込み焼失を免れた。左手が上で右手が下と日本で 10 体位しかない逆手阿弥陀如来で貴重な仏像である。



## ◎慶立山 萬福寺(まんぷくじ)：浄土宗(本尊:阿弥陀如来)

1594(文禄3)年に僧開導により開創された。開導は前田次郎兵衛利信という武将で前田利信の弟に当たる。下寺町のお寺の多くが知恩院(京都市東山区)を本山とする浄土宗である中で、当山は光明寺(長岡京市粟生)を本山とする西山浄土宗の流れを汲むお寺である。

1863(文久3)年から1867(慶応3)年まで新選組が屯所(旅宿)を置いたとされ、大坂相撲力士との乱闘、与力内山彦次郎暗殺、石蔵屋ぜんざい襲撃事件などは、その屯所を中心に起こされたと言われている。1865(慶応1)年には漢詩人の藤井藍田が拷問の末に絶命したそうである。

境内には「尊かるなみだや染てちる紅葉 はせお」と刻まれた芭蕉の句碑があり、他にも四季折々の風情が楽しめる庭が広がる。都会の喧騒とは異なる美しい静謐(せいひつ)をたたえた様子に、参詣された方々から「山門をくぐった瞬間に別世界がひろがる」というお言葉を頂戴することも多い。



## ◎東営山西岸院 源聖寺(げんしょうじ)：浄土宗(本尊:阿弥陀如来)

源聖寺縁起によると、当寺を建立された初代は、深蓮社遠誉上人荷公和尚とおっしゃり、奥州衣川(岩手県)の出身で、継母の妬みにあい、父の勧めによって常陸国瓜連(茨城県)浄福寺にて出家し、六十歳の時、慶長元年春、諸国行脚に出られ、西成郡寺嶋(現在の大阪西区九条あたり)に草庵を結ばれた。従って、東国より来て行業(仏道の修行)を西海の岸に営んだ故に、その寺名を東営山西岸寺と名付けられた。

また、安阿弥が彫刻した二尺五寸の阿弥陀如来像をご本尊として祀っていたが、大坂の陣の際に、戦乱によって失われてしまうことを案じて、初代遠誉上人はご本尊像を寺地の前の浜辺から海に流された。大坂の陣の後、徳川家康の治世になって世の中が安定すると、浜辺で光明を放つものがあり、確認してみると海に流したはずのご本尊像であった。この像を拾い上げ、民家を譲り受けて寺観を整えて、そこでお祀りされた。その際、初代遠誉上人は、源空上人(浄土宗開祖法然上人)の源を湛えて吉水(法然上人がお念仏の教えを説き広めた地、現在の知恩院付近)の流れをくむ聖ということから、寺名を「東営山西岸院源聖寺」と改められた。



その後、徳川家康が大坂の町並みを整え、各所に散在していた寺院を一か所に集め、摂州西成郡大坂西寺町に当寺も移った。遠誉上人は、元和四年(1618)12月1日に八十九歳で正念往生された。

なお、遠誉上人は、源頼朝が富士の牧狩りで用いた羽釜を父より譲り受けており、それは薬湯が出たといわれる由緒ある釜で、寺宝として伝来していた。初代遠誉上人並びにその釜のことは、「京童跡追」という書物の中に詳しく紹介されていたとのことであったが、残念ながら今日その釜は現存していない。

さらに、当山本堂内には、本尊阿弥陀如来立像の他、木像の延命火除地蔵尊をお祀りしている。この仏様は鎌倉時代のお仏像である。境内には、救世観音菩薩(花の観音さま)・弁財天をお祀りしている。

## ◎泥垣山単信院 稱念寺(しょうねんじ)：浄土宗（本尊:阿弥陀如来）

開基は慶長元年（1696年）大蓮寺の来寺として深譽上人により開山された。浄土宗総本山知恩院末、大阪新 48 願所 47 番札所であり、徳川時代初期に泉州岸和田の海中から発見された石仏が一願観音として尊信を集める。山門は江戸中期、有形文化財指定されている。本堂は平成 7 年 11 月 13 日焼失、平成 11 年 12 月再建された。

本堂欄間には天女、迦陵頻伽（かりょうてんが）〈上半身が人で、下半身が鳥、極楽浄土に住む〉を修復し、高さ 5 メートル 20 センチの天井には幅 4 メートル 50 センチ、奥行き・6 メートルの内陣天井絵に 7 人の天女が描かれている。作者は京都絵師林屋拓翁氏。須弥壇は岐阜県土岐市陶芸作家伊藤慶二氏の 8 枚の陶板に梵字が書かれている。須弥壇内部には写経を納められるようになっている。仏天蓋は雲をあしらった独特の形である。庭には池があり、滝が流れ、錦鯉が 10 数匹泳いでいる。



## ◎大蓮寺(だいれんじ)：浄土宗（本尊:阿弥陀如来）

なにわの名刹大蓮寺は、いまから 450 年前の天文 19 年（1550 年）、時の将軍足利義晴の三男・晴誉上人によって、足利家の大阪祈願所として創建された。

近世には、広大な寺域でしばしば出開帳や勧進興行が催され、また大阪 33 カ所観音巡礼の札所としても知られ、往時の賑わいは近松門左衛門の名作「曾根崎心中」にも描かれている。

また当時から大規模な寺子屋が開かれ、明治期には高津小学校や天王寺中学校（現在の天王寺高校）が当山で開校、1953 年には、当寺直営のパドマ幼稚園を開園、地域文教の拠点として歴史にその名を刻んできた。

「伝統と革新」を理念とした、大蓮寺と應典院の社会教化事業は全国の都市寺院の範として広く親しまれている。

### ●浄土宗大蓮寺應典院塔頭

大蓮寺三世誓誉在慶の隠棲所として 1614 年に創建された大蓮寺の塔頭寺院である。1997 年に再建される際、一般的な仏事ではなく、かつてお寺が持っていた地域の教育文化の振興に関する活動に特化した寺院として計画され、〈気づき、学び、遊び〉をコンセプトとした地域ネットワーク型寺院として生まれ変わった。

音響・照明施設を備えた円形型ホール仕様の本堂をはじめ、セミナールームや展示空間を備えており、演劇活動や講演会など様々な活動に用いられている。一般に開放された玄関ホールには芝居や講演会のチラシが置かれ、文化情報の発信および人々の交流の場として機能している。また、應典院寺町倶楽部の拠点施設として、コモンズフェスタや寺子屋トークの舞台となっている。



### てんのうじ知りたい倶楽部メンバー募集！

てんのうじ知りたい倶楽部は会員相互に協力し、住民意識を向上することで、住みよい魅力あるまちづくりを推進することを目的とし、天王寺区未来わがまち会議の活動を継承しつつ、天王寺区の宝（文化・歴史・企業など）を区民に知ってもらい、天王寺区に住む喜びを感じていただくとするグループです。

詳しくは [tennoji.shiritai.club@gmail.com](mailto:tennoji.shiritai.club@gmail.com) にご連絡ください。